

平成28年度 自己評価結果公表シート

学校法人たつみ学園
ながいけ認定こども園

1 園の教育方針

「子どもを物語れる保育者目指して」を大切に、
子どものあるがままの生活をベースにした保育を展開します。
本園は園内に自然環境(動物・植物・水・土など)をたくさん取り入れ、子どもが
自ら感じ・考え、自らかかわり、そして行動することのできる人間に育つことを
目指しています。
子どもたちは生活の中でのすべてを学びとしています。遊びも生活の一部です。
いろいろな経験を通して子どもの成長を支えています。
子どもひとりひとりの個性・発達に応じた保育を行うため、物的環境や人的環境に
配慮した指導計画を立て実践しています。

2 本年度に設定した重点的に取り組むことが必要な学校評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することによって、保育者自身が
客観的に自園を見たり、自分の保育を振り返る目を養う。
また保育者同士による、意見交換や保育の内容の検討を日々行なうことにより
園全体の質の向上と自身の保育技術の向上に努力している。

3 評価項目の達成及び取り組みの状況

| 評価項目 | 達成及び取り組みの状況 |
|-----------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 認定こども園教育・保育要領を理解した上で、園の教育方針に従い指導計画を作成する | 年度当初に、1年間の基本的な取り組みについての共通理解を行い、目の前の子ども様子を大切にしながら、学年別や異年齢交流についての指導計画作成に当たっている。 |
| 環境の構成や保育の評価・反省を行う | 各学期毎に、学年別・異年齢交流・全体等の検討を行っており、その意見は指導計画の中に反映されるよう、記載している。 |
| 子どもの実態を的確につかみ、具体的な手立てを講じる。 | 保育者は日々の記録を丁寧にとることをベースに、保育者間の意見もお互いに参考にしながら、毎日の保育案作成に反映させている。 |
| | |

| | | |
|---------------------|--|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 子どもの評価を大切にす る | | 「みんなちがってみんないい」を合言葉に、ひとりひとりの 違いを認めながら、かかわるようにしている。 |
| | | |
| 園内研修を充実させる | | 特別支援については外部講師として大阪府立大学里見 恵子氏を招へいしてのケース検討会を実施し、それと並 行してキンダーカウンセラーも保育を見た上で各保育者 がアドバイスをもらい、保育実践に生かしている。その他 次年度の縦割り保育に向けての大阪総合保育大学の大 方美香氏を講師として招へいし、縦割り保育についての 研究を深めた。 |
| | | |
| 園外研修を充実させる | | 大私幼・阪私幼・チャイルドネット大阪・保育と仲間づくり 研究会の4つをベースとして、保育者自身が選択をして研 修を受講する部分と全員一緒に受講する部分とを区別し ている。研修の記録については、共通理解できるようレ ポートとして全員に配布している。 |
| | | |
| 保護者等へ保育の情報提 供をする | | 園内では「クラスのポートフォリオ」(写真とコメント)を学年 別に掲示している。大きな行事では行事への取り組み経 過などを各クラス別に提供している。また日々保護者と保 育者との間で子どもの様子等についてコミュニケーション をとるようにしている。また次年度より実施予定の縦割り 保育についての勉強会や質疑応答の会を実施した。 |
| | | |
| 保護者からの評価を実施 する | | 今年度も保護者へのアンケート今年度も実施した。回収 率は90%を超えており、その結果保護者からの園の教 育方針や内容に対する理解度は90%以上が理解できた としている。環境についても自然が豊富で良いとするもの がほとんどであった。また保護者自身が幼稚園を楽しめ たという声も多く頂いた。 |
| | | |
| 財務状況を積極的に公表 する | | 財務状況については、公認会計士の監査を年間3回受け 適正であるとの報告を受けている。その結果はホーム ページにも公開している。 |

4 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

| 結 果 | 理 由 |
|-----|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| A | 保育者ひとりひとりが園の教育方針等を理解し、保護者との 連携も円滑に行っている。子どもの成長は3歳児・4歳 児・5歳児それぞれの段階で充実しており、結果として卒 園前の5歳児の育ちは個々と集団の両面で育っていた。 また園庭環境や保育室環境などの面でも4月からの1年 間の子どもの様子に合わせた環境設定が行われた。 |

5 今後取り組むべき課題

| 課 題 | 具 体 的 な 取 り 組 み |
|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 保育計画等について | 前年度の保育計画を基にすることと、目の前の子どもの実態をベースに保育計画を立てることの両方を大切に、話し合いの時間をしっかりとる努力をしたい。また子どもへのかかわりを充実するために、日々の記録を大切にしたい。 |
| 自己評価・学校評価等について | 保護者のアンケートを熟読した上で、教員の自己評価を行い、質の充実を図る。研修でも「研修ハンドブック」を活用し、ばらつきのない研修受講をすすめる。 |
| 情報の公開 | 現在行っている公開の方法を堅持しつつ、リニューアルの頻度を今以上に行い、新しい情報を提供できるようにする。 |

6 学校関係者評価委員会の意見

関係者評価は法人役員による委員会を年2回実施している。

委員会の方に、参観日・運動会・音楽会など、いろいろな保育場面を見て頂くようにし、それを大切な評価観点とするようにしていく。

委員会では、長池が創立当初より大切にしている子どもの生活のリズムの確立と保護者が育つことの両方が現在も行われていることを評価して頂き、今後も子どもの視点を大切に保育していくようにとの意見を頂きました。